

今後の予定



☆世界 KAMISHIBAI の日

12月7日は世界 KAMISHIBAI の日です



2020年12月7日は月曜日。図書館などでは、12/5(土曜)12/6(日曜)の開催も検討して下さい。家庭で、小さな集まりでの開催も報告してね

☆おうちで紙芝居キャンペーン

紙芝居文化の会は、ホームページとフェイスブックで「こんな時だから、おうちで紙芝居を楽しみましょう。親と子、パートナーと、孫と可愛いペットとも向き合つて心を通いあわせましょう」と呼びかけています。

楽しい写真や動画をぜひみてくださいね。

紙芝居あいちの仲間の笑顔も見れますよ。

投稿もぜひぜひお待ちしています。

また、ホームページ内で、紙芝居を学べる企画も計画中。ご期待ください。

☆紙芝居講座

10月14日(水) 10時~11時30分

岐阜県 海津市にて

☆紙芝居はうす これからの予定

今は新型コロナ感染予防のため

お休みです。

原則は毎月第2月曜日です。



コラム 《ま・間・ま》

2020年の夏、名古屋はお盆の期間中40度を超す猛暑。熱中症、コロナ感染注意で外出自粛。そんな中、我が庭・畑で小さな生き物たちに出会った。3ミリにも満たないカタツムリ！ちゃんと渦を巻いている！6月には数匹の大きなカタツムリに足下が遮られた。『かたつむりさん、こんにちは』の世界。そのすぐそばで飛び跳ねるもののがいる。小さな蛙？水辺は400メートルも彼方。どうしてここに？それも小さくて数匹。8月末の今、少し大きくなり、トノサマガエルと判明。トカゲもちよろちよろ。ショウワリョウバッタもびょーん。オハグロトンボがひらひら、アオスジアゲハもこんにちは！歓迎したくないものも、スズメバチの巣、ドロバチの巣まで。なんて、豊かなのだろう！今まで、なぜ気がつかなかったのだろう。草取りはただの義務的作業だった？でも草は草で小さな花をついていると抜きづらい。そうだ、この小さな生き物たちのために、ある程度自然のままにして彼らとゆっくり付き合っていこう！



紙芝居文化の会 あいち とは

こんなことやりたい

- ・通信を発行します
- ・紙芝居講座を開催します
- ・情報交換をします



会員になるには

紙芝居文化の会にご入会下さい

詳しくは、紙芝居文化の会：

<http://www.kamishibai-ikaja.com/>

または、下記連絡先まで

紙芝居文化の会あいちの会費は不要です

愛知県内だけでなく近隣の方々もご参加下さい

連絡先

〒470-0126 日進市赤池町村東149

紙芝居文化の会あいち代表 近藤洋子

FAX 052-801-5794

kamishibai@ yahoo.co.jp



紙芝居文化の会 あいち

第18号
2020.9



紙芝居文化の会とは

- ・紙芝居を愛する人
- ・紙芝居に興味のある人
- ・紙芝居を演じたい人
- ・さまざまな思いの人、海外の人とも出会い、交流する場です。

(2001年創立 事務局東京都三鷹市)

みんな～元気ですか？

今回はコロナ禍のみなさんの近況や思いを特集しました

★コロナに翻弄された図書館

図書館が自由に利用できなくなる、そんなことがおきるなんて思ってもいないことでした。名古屋市鶴舞中央図書館は、3月以降おはなし会をやめ、児童室のカウンターも閉じていました。夏休みとともにカウンターを再開できたものの感染は再拡大。賑やかな声は戻りませんでした。ところが本は思いのほか貸出されています。小学生向け夏の読書ノートの取組みも堅調。外出を控えている子どもたちのために、保護者の方が本を借りに来てくださっているのですね。

何か読みたい！でも滞在は短く！の思いに応えたく展示を工夫しています。一方でそうした環境にいる子どもたちもいるでしょう。図書館を安全に利用してもらえるよう努めなくては！

(M・R)

席数を減らさなくてはならずソファに並べた紙芝居。目にとまりやすく、よく手に取られています。



★子どもが絵を読む力

コロナと娘の里帰り出産が重なったので、3歳の孫娘に毎日、紙芝居を演じていました。そこで感じたのは、子どもは本当に絵をよく見て、絵でストーリーから気持ちまで読みしていくことです。特に絵が動くのが面白いらしく、自分で画面を抜いて、途中で止めてを繰り返します。そして、自分の思い通りの絵がでて、二つの絵がうまく重なると満足げです。「画面が抜かれて次の場面が出てくる時、観客は集中する」と何度も講座で聞いていたとおりです。

「子どもの絵を読む力ってすごい！」と私が感動している間に、孫娘は絵本を見ながら、「くんちゃんのく」と文字のひろい読みをはじめています。短い時間に急速にのびて失われるかもしれない「絵を読む力」。紙芝居でもっと大切にしたい。(M・Y)



★二俣英五郎の画の魅力

『たべられたやまんば』に惹かれます。どこが魅力なのか、休み中に考えることにしました。

まず第1場面。邪気のないこぞうと、こっちへこいと手で指示すおばあさん。見ている人はこぞうに思い入れるから、こぞうと一緒にになっておばあさんの話をきき耳をかたむけ、お話の世界に入り込める。

第2場面、大きな茅葺のお寺がでーんと立つ。中では、おしようさんがこぞうにお札を渡している。すごい構図。お札は重要な切り札なのに、渡す場面がアップじゃなくて、小さく小さく、遠い。草深い山寺でのおしようさんとこぞうのたんたんとした日常が感じられ、お話の舞台がわかる。

第3場面は、平和そのもの。正座してうまそうにクリをくうこぞうと、よそつてやるおばあさん。クリの皮はいつむくんかい？とはつこまない。われわれの世界とはちがうクリなのだ、きっと。場面は急展開（第4場面）。夜半かたむきかけたやまんばの家に雨が降り注ぎ、こぞうは目がさめ心がざわつく。くらい画面に白い雨、こぞうのまわりにぽっかりと空間をあけ、目玉をくりくりにして緊張感をつくりだす。家の外にさりげなく便所が描かれ、あとで活躍する柱もある。

第5場面、やまんば姿を表す。画面の左8割がやまんば、こぞうは2割でまくらのなか、節穴から覗く。当然、みてる人はおそろしいやまんばを覗く立場だ。こわいこわい。だが、やまんばの顔は赤らみ、いとぐるまを回すことに少々苦戦しているように見える。第8場面。便所の柱だけの画。画面にはでてないやまんばが帶をひっぱると「まあだ、まあだ」と（柱に貼られた）お札が言う。お札には口はないしどうやって声がでているのかしらん。いらいらしているやまんばを想像する。想像を無限にひき出す。第10、11場面。大川とすな山の場面。大川が波のしづかぬ湖に見え、すな山は大きくは見えないのは、私だけ？これで、やまんばの不器用さがなんなく感じられる。気づくと、応援してたりして。

第12場面、お寺の門の前。こぞうは必死に門扉をたたくけどおしようさんはのらりくらり。でも遠くにみえるおしようさんのへやは黄色のひかりでみちている、きっとあそこにいけば助かると、だれもが思える。黄色が効いてる。

第13場面、やまんばがやってきた。今にもおしようさんにおそいかからんばかりの迫力。こぞうの隠れた戸棚も、すぐそこに。見ている方も、いつ見つかるか、とハラハラ。



このちょっとひんまがった戸棚が効いてます。中で、こぞうが絶体絶命！と目をぎゅっとじてるさまが目にうかぶ。

第14場面から、やまんばと和尚さんとのかけあい。やまんばが、うまそうにもちを食うのを見ているおしようさんの目は、なんなんでしょう。大にゅうどうにおどかされているおしようさんの目は、すでにやまんばを食べることを考えてるのでしょうか、豆を食うおしようさんの表情は…いい表情だねえ、としかいいようがないです。

二俣英五郎は、手や足をほんとよりずいぶん大きく描くことがあります。デッサンは正確。『ひよこちゃん』のにわとりや猫やかえるも、手や足や指が大きくて、しっかりと描いてあります。だから、存在感がきわだちます。やまんばもおしようさんもこぞうも、手と指と足が大きくしっかりと描かれている。私はそれが好き。『たべられたやまんば』の画の魅力は、正確なデッサンに裏打ちされた黒りんかく線の自在な筆遊び、色使いの的確さ、ユーモアと見る目の暖かさ、無駄のない的を得た画面構成、かな。(I・R)

★家族で紙芝居

思いもよらぬコロナ禍で、紙芝居を演じる場が家族の前に変わりました。先日は『おおきく おおきく おおきくなあれ』を演じました。2歳の孫Kは、小さいぶたの場面では体を縮め、大きくなると両手を大きく回し大喜びです。

まるで自分も大きくなかったかのようでした。「おおきく おおきく おおきくなあれ」はまだ言えませんが、「おお」「なれ」を皆の顔を見ながら一緒に言います。声を出し、気持ちが通じ合う心地よさを改めて感じました。そして、1番のお気に入りは、最後のケーキの場面です。Kがケーキを一人ひとり大切に配るのです。小さいながらも、ケーキを分け与える喜びを知っているのかと感心させられました。もちろん最後は「Kも」と、ケーキを美味しそうに食べ、お腹も心も満たされた様子でした。皆が笑顔になり、幸せな時間を過ごす事ができました。(O・Y)

